

歴史教育における博物館展示の新たな活用 ーメタ・パブリックヒストリー学習ー

A New Possibility of Using Museum Exhibits in History Education:
Meta-Public-History Studies

服部 一 秀* 関戸 宏 樹**
HATTORI Kazuhide SEKIDO Hiroki

要約：本稿は、歴史教育における博物館展示の新たな活用の可能性について、具体的な学習指導計画「山梨県立博物館が語る歴史」を通して明らかにするものである。この「山梨県立博物館が語る歴史」は、高校歴史教育の導入段階において、パブリックヒストリーとしての身近な博物館の歴史展示についてメタ的に分析検討する学習の一つのモデルである。歴史展示をヒストリー学習において過去の史料として取り扱うのではなく、メタ・ヒストリー学習において現在の歴史叙述として取り扱う。これは、教師の指導のもと、生徒が博物館の歴史展示の構築性を分析し、さらに正当性を吟味検討することにより、その後の学習で歴史展示の有り様や望ましい在り方について取り組んでいくための基本的な理解や視点、意識を身につけるものである。

キーワード：メタ・ヒストリー、パブリックヒストリー、博物館、歴史展示、歴史教育

I はじめに

本稿の目的は、博物館の歴史展示を分析検討するメタ・パブリックヒストリー学習の指導計画を開発し、歴史教育における博物館展示の新たな活用の可能性について明らかにすることである。

一般の人々のパブリックな領域における歴史をパブリックヒストリー (public history) と呼ぶとすれば¹⁾、その代表的な一つとして博物館の歴史展示が挙げられよう。博物館の歴史展示はパブリックな領域における歴史のなかでも人々からの信頼が比較的厚いようである。尤も、それは過去をそのままに再現しているわけではない。一種の歴史叙述であり、現在における過去についての語り (ナラティブ) である²⁾。確かに、個々の展示物は、現在において過去について捉えるため、その手がかりとなる史料 (歴史資料) として用いることができるものである。とはいえ、無作為に取り上げられているわけではないし、無脈絡に置かれているわけでもない。特定の立場や趣旨・意図に従って選択・配置されている。多くの場合、キャプションが添えられてもいる。博物館展示は展示叙述とも呼ばれ、構築性やパースペクティブ性、政治性を有している。社会のなかでうみだされるとともに、人々の意識や判断に働きかけ、社会をうみだす作用をもちうるのが、パブリックヒストリーとしての博物館の歴史展示である。

しかしながら、そのような歴史叙述としての博物館展示の性格は、従来の歴史教育では軽視あるいは無視されてきた。無論、歴史教育における博物館の活用が繰り返し要請されてきたことは間違いない。2017・2018年に告示された新しい学習指導要領でも、小学校社会科から中学校社会科、高等学校地理歴史科までの何れに関しても、博物館の活用が求められている。例えば、高等学校の

* 生活社会教育講座 ** 教育実践創成専攻大学院生

新科目歴史総合の場合、「年表や地図，その他の資料を積極的に活用し，文化遺産，博物館や公文書館，その他の資料館などを調査・見学したりするなど，具体的に学ぶよう指導を工夫すること」（内容の取扱い(1)エ）とされている。とはいえ，それらで重要視されているのは，現在の歴史叙述としての取り扱いではなく，過去の史料としての取り扱いである。一部の先駆的論考³⁾を除けば，高等学校の歴史教育においてすら，博物館の歴史展示は史料としてのみ捉えられ，その活用は過去について取り組むヒストリー学習を充実させるためのものと考えられている。そうした博物館展示の活用に限定されているのは，これまでの歴史教育ではヒストリー学習が偏重され，過去を扱った既存の歴史について取り組むメタ・ヒストリー学習は等閑にされているからであろう。

勿論，国家・社会の形成者の育成に向け，ヒストリー学習は重要である。ヒストリー学習をよりよいものものにするため，博物館の展示を史料として活用することも必要である。これまでも博物館の展示を史料として活用するヒストリー学習の追究がすすめられてきたし⁴⁾，これからもすすめられていくべきである。けれども，ヒストリー学習とともにメタ・ヒストリー学習もまた重要である。とりわけ，パブリックな領域における歴史のメタ・ヒストリー学習，すなわち，メタ・パブリックヒストリー学習は，社会に溢れる歴史との熟考的なかわり方を学べるようにするだけでなく，歴史授業において現在について直接的に取り組むことを可能にし，社会認識やそれを一環とする社会形成の学習として働くものである⁵⁾。博物館の歴史展示というパブリックヒストリーを代表する歴史叙述のメタ・ヒストリー学習が実現されるならば，歴史教育の役割を拡張し，生徒と社会にとっての意義を高めていく上で，大きな意味をもつ。その実践化に向け，具体的な学習指導計画レベルにおいて，博物館展示の歴史叙述としての活用の可能性が明らかにされる必要があるだろう。

本稿では，高等学校の生徒が身近な博物館の歴史展示をメタ的に分析検討する学習単元を開発し，高等学校の歴史教育における博物館展示の新たな活用の可能性を明らかにすることにより，そうした課題に迫ることにしたい。その学習単元とは，歴史総合の導入段階用であり，山梨県内の高等学校において山梨県立博物館の常設展示について取り上げる「山梨県立博物館が語る歴史」である。高校歴史教育の導入段階で身近な博物館の歴史展示について取り組むメタ・パブリックヒストリー学習の一つのモデルを提示し，博物館活用の新たな可能性を明らかにしたい。そのため以下，Ⅱで単元「山梨県立博物館が語る歴史」のねらいを説明した上で，ⅢとⅣで基本設計と具体的な学習指導計画を提示し，さらにⅤでその特質と意義を示そう。

Ⅱ 「山梨県立博物館が語る歴史」のねらい

単元「山梨県立博物館が語る歴史」は，高等学校の地理歴史科に新設された歴史総合という必修教科目の導入段階において，身近な博物館の歴史展示について生徒がメタ的に分析検討するものである。山梨県内の高等学校での実施を想定しており，山梨県立博物館の常設展示を取り上げる。その常設展示は，「山梨の自然と人」を基本テーマとし，「山梨の風土と暮らし」，「甲斐を往き交う群像」，「共生する社会」という3つのパートで地域の歴史をテーマ別に表現している⁶⁾。当然のことながら，そのような山梨県立博物館の常設展示に関する単元「山梨県立博物館が語る歴史」をそのまま他地域の高等学校で実施することはできない。けれども，それは他地域の高等学校で身近な博物館の歴史展示について分析検討する学習のためのモデルとなる。まず，この単元のねらいについて説明しよう。

単元「山梨県立博物館が語る歴史」の中心目標は，表1の通り，3つある。

その1つめは，博物館の歴史展示では過去そのものが提示されているのではなく，現在における過去についての解釈が表現されていることを，展示の具体例に即してわかることである。現在にお

表1 単元「山梨県立博物館が語る歴史」の中心目標

- ・博物館の歴史展示では過去そのものが提示されているのではなく、現在における過去についての解釈が表現されていることを、展示の具体例に即してわかること。
- ・博物館の歴史展示を分析したり吟味検討したりするための視点に気づくこと。
- ・博物館の歴史展示を人為的につくられたもの、したがって唯一絶対ではなく他にもありうるもの、新たによりよく改めうるものとして意識すること。

ける歴史叙述，すなわち，過去についての語り（ナラティブ）としての歴史展示の基本的性格をわかることが，この1つめの目標である。

2つめは，博物館の歴史展示を分析したり吟味検討したりするための視点に気づくことである。形態・方法や内容，そのような取り扱いをうみだしている過去理解と展示の趣旨・意図，また，それらの根底にある政治的社会的立場からなる歴史展示の論理構造を分析検討するための視点に気づくことである。歴史展示の基本的性格を捉えるだけでなく，そのような展示を分析したり吟味検討したりするための基本的視点に気づくことが，2つめの目標である。

3つめは，博物館の歴史展示を人為的につくられたもの，したがって唯一絶対ではなく他にもありうるもの，新たによりよく改めうるものとして意識することである。現状の歴史展示を鵜呑みにせず，熟考的にかかわる必要があると意識することである。

このような3つの中心目標は，小中学校におけるヒストリー学習偏重の歴史教育の現状に鑑み，社会の中の歴史に関するメタ・ヒストリー学習を高等学校の歴史教育で始発させざるをえないと仮定してのものである。歴史総合の導入項目「A歴史の扉」の「(2)歴史の特質と資料」では，「(1)歴史と私たち」で取り扱う「過去の事柄」としての歴史ではなく，「過去の事柄についての叙述」としての歴史に着目させようと考えられている⁷⁾。その一環において，パブリックな領域の歴史にまで対象を拡げ，博物館展示に関するメタ・パブリックヒストリー学習を組み込むとすれば，分析検討のための基本的な理解や視点，意識を育むことが目標となる。歴史総合が学校教育における歴史学習の最後の機会となる生徒も少なくないであろうことを考えれば，最低限この科目では，ヒストリー学習とともにメタ・ヒストリー学習を展開させるべきであり，それを導入段階で着実にスタートできるようにすることを重視しているのである。

III 「山梨県立博物館が語る歴史」の基本設計

単元「山梨県立博物館が語る歴史」では，博物館の歴史展示の分析検討を支える基本的な理解や視点，意識を育むため，生徒が教師の指導に基づいて実際に歴史展示の分析検討に取り組めるようにする。そのような学習指導の基本設計を示し，設計理由を説明しよう。

1 基本設計

単元「山梨県立博物館が語る歴史」の基本設計は，表2の通りである。

この単元では，山梨県立博物館の常設展示を中心対象とし，その分析検討の学習を4つのパートですすめる。

導入にあたる【パート1】では，国内外のいくつかの博物館に触れた上で，「国内外にさまざまな博物館があるなかで，山梨県立博物館はどんなタイプの博物館でしょうか」という問いに取り組む。生徒は博物館の分類に従って，山梨県立博物館のタイプを見定め，歴史系博物館としての存在を確認する。そうして，【パート2】では，「山梨県立博物館の常設展示では何がどう表現されているの

表2 単元「山梨県立博物館が語る歴史」の概要

| パート | 主要な問い | 対象 | 考察 | 学習の内容 |
|--------|--|--------------|---|--------------------|
| 【パート1】 | 国内外にさまざまな博物館があるなかで、山梨県立博物館はどんなタイプの博物館でしょうか。 | | 博物館としてのタイプの同定 | 歴史系博物館としての存在確認 |
| 【パート2】 | 山梨県立博物館の常設展示では何がどう表現されているのでしょうか。 | | 歴史展示と過去の事象との関連、解釈表現の特色の確認／特色確認の視点の振り返り | 歴史展示における過去の取り扱いの理解 |
| 【パート3】 | なぜ山梨県立博物館の常設展示ではそのように山梨の地域の歴史が表現されているのでしょうか。 | 山梨県立博物館の常設展示 | 社会における歴史展示の構築／分析の視点の振り返り | 歴史展示の理由・背景の認識 |
| 【パート4】 | 山梨県立博物館の常設展示に改善すべきことはあるでしょうか。あるとすれば、どう改めるとよいでしょうか。 | | 社会にとつての歴史展示の存続・改変の正当性の吟味検討／吟味検討の視点の振り返り | 歴史展示への対応の判断 |

歴史展示の基本的性格／分析検討の基本的視点／熟考的にかかわる基本的意識

ツールミンの議論の論理に基づく分析検討

でしょうか」という問いに取り組む。この問いに従い、展示によって扱われている過去の事柄、それらの表現の特色に着目して展示を読み解き、展示による過去についての取り扱いを把握する。

その上で、【パート3】では、「なぜ山梨県立博物館の常設展示ではそのように山梨の歴史が表現されているのでしょうか」という問いに取り組む。地域の過去についての理解、展示の趣旨・意図

とその根底にある政治的社会的立場、また社会的背景との結びつきに着目して、地域社会における構築を分析し、歴史展示の理由・背景を認識する。

最後に、【パート4】では、「山梨県立博物館の常設展示に改善すべきことはあるでしょうか。あるとすれば、どう改めるとよいでしょうか」という問いに取り組む。地域の過去についての理解の適切さ、その過去についての理解や展示の趣旨・意図と実際の展示との整合さ、展示の趣旨・意図や政治的社会的立場の妥当さに着目し、地域社会にとっての歴史展示の在り方を地域社会の在り方と結びつけて吟味検討し、現状の展示の存続や改変という対応について判断する。

歴史系博物館としての確認と、常設展示における過去の取り扱いの理解とによる歴史展示の存在の意識化からスタートし、歴史展示の理由・背景の認識による存在の対象化をすすめ、さらに歴史展示への対応の判断によって新たな存在形成の正当化を試みるように学習を展開させるわけである。

2 設計理由

このような「山梨県立博物館が語る歴史」の設計は、前記の目標に基づくとともに、以下の4つの考えに従っている⁸⁾。

その第1は、学習の内容についてであり、メタ・パブリックヒストリーの導入学習としての目標に従い、歴史展示に取り組むための基本的な理解、視点、意識を生徒が学びとることをねらうことである。

歴史叙述すなわち過去についての語り（ナラティブ）としての歴史展示の性格、展示における過去の取り扱いの論理構造を分析し吟味検討するための視点、人為的につくられたもの、新たによりよく改めうるものとして熟考的に歴史展示にかかわる意識が、中心内容である。それらを教師が伝達するのではない。「山梨県立博物館が語る歴史」では、生徒自身が教師の指導のもと、歴史展示における過去の取り扱いの理解、そのような取り扱いの理由・背景の認識を踏まえ、歴史展示への対応の判断をつくりだすように導く。それらを通すことで、そうした学習内容を生徒が実践的に学びとれるようにする。

第2は、そのための学習対象についてであり、生徒にとって身近な地域博物館の歴史展示について取り上げることである。

この単元の場合、それは山梨県立博物館の常設展示である。確かに、歴史総合の場合でも、大項目B以降であれば、国内外のいろいろな歴史展示を分析検討させることが考えられる。例えば、大項目B「近代化と私たち」において、近代国家形成や工業化などに関する展示を取り上げたり、大項目C「国際秩序の変化や大衆化と私たち」において、世界大戦などに関する展示を取り上げたり、大項目D「グローバル化と私たち」において、冷戦や冷戦終焉などに関する展示を取り上げたりすることができる⁹⁾。けれども、大項目「A歴史の扉」での導入学習として想定するならば、歴史展示に関する基本的な理解や視点、意識を育むことを先ずは目指すため、生徒にとって既知であり、できれば小学校社会科の地域学習・歴史学習や中学校社会科歴史的分野での「身近な地域の歴史」の学習などで接触経験があり、これまでに疑問の眼を向けたことのない身近な博物館の展示を取り上げることが有効である。身近な地域の博物館展示であれば、中学校までの歴史学習の学習成果に基づき、特段のヒストリー学習を組まなくとも、メタ・ヒストリー学習に取り組みせることも可能であろう。

第3は、対象に取り組む学習の過程についてであり、歴史系博物館としての山梨県立博物館の存在確認を踏まえ、その常設展示における過去の取り扱いの理解から、そのような展示の理由・背景の認識、常設展示への対応の判断へ、よりよい展示の在り方を探求するメタ・パブリックヒストリー実践としての一連の過程を構成することである。

そのために4つのパートを設け、「山梨県立博物館はどんなタイプの博物館でしょうか」、「山梨県立博物館の常設展示では何がどう表現されているのでしょうか」、「なぜ山梨県立博物館の常設展示

ではそのように山梨の地域の歴史が表現されているのでしょうか、「山梨県立博物館の常設展示に改善すべきことはあるのでしょうか。あるとすれば、どう改めるとよいのでしょうか」というように主要な問いを展開させる。歴史叙述としての博物館展示の発見的学習（【パート1・2】）、脱構築的学習（【パート3】）、再構築的学習（【パート4】）により、よりよい在り方の探求に取り組めるようにし、基本的な理解や視点、意識を生徒が学びとるための学習過程を構成するわけである。

第4は、そのような過程における学習の方法についてであり、D-W・B-Cというトゥールミンの議論の論理に基づく批判的な分析と吟味検討による判断形成を重視することである¹⁰⁾。

C（展示における過去の取り扱い）を読み解いた上で、そのような取り扱いをうみだしているD（地域の過去についての理解）、W（展示の趣旨・意図）やB（政治的社会的立場）に着目して分析し、歴史展示の論理構造を可視化して対象化する。そうして、D（地域の過去についての理解）の適切さ、D（過去についての理解）とW（展示の趣旨・意図）とC（展示における過去の取り扱い）の整合さ、W（展示の趣旨・意図）やB（政治的社会的立場）の妥当さに着目して吟味検討し¹¹⁾、論理構造を評価づけたり、つくりかえたりし、正当化を試みる。このように生徒自身が議論の論理に基づいて歴史展示を批判的に分析検討して望ましい在り方を探求することにより、メタ・パブリックヒストリー実践を遂行し、歴史展示についての基本的理解と分析検討の基本的視点、熟考的にかかわる基本的意識を学びとれるようにする。

「山梨県立博物館が語る歴史」では、このような考えに基づき、身近な地域博物館である山梨県立博物館の常設展示を対象として取り上げ、歴史系博物館としての存在確認を踏まえ、その常設展示における過去の取り扱いの理解から、そのような展示の理由・背景の認識、常設展示への対応の判断へとすすむ学習の過程を構成する。そうして、トゥールミンの議論の論理に基づく学習の方法により、よりよい在り方の探求を批判的な分析検討によって生徒自身が遂行できるように導き、博物館展示に取り組むための基本的理解と基本的視点、基本的意識という学習内容を学びとれるようにする。このようにして博物館展示に関するメタ・ヒストリーへ導入することができれば、「これからの歴史学習において、学習の題材に関連する展示についても検討してみましよう。また、博物館の展示以外にも、社会の中に歴史を見出し、検討してみましよう」と問いかけ、後続の大項目におけるメタ・パブリックヒストリー学習を準備させることができるだろう。

IV 「山梨県立博物館が語る歴史」の学習指導計画

「山梨県立博物館が語る歴史」は、上記の基本的な考えに基づき、歴史総合の導入段階において身近な博物館の歴史展示を分析検討するメタ・パブリックヒストリー学習の1つのモデルとして構成されている。その学習指導計画を表3として示そう¹²⁾。

表3 単元「山梨県立博物館が語る歴史」の学習指導計画

| パート | 発問・指示 | 教授・学習活動 | 資料 | 予想される答え／学ばせたい内容 |
|--------|--------------------------------------|-------------------------------------|------------|---|
| 【パート1】 | ・大英博物館やルーヴル美術館を知っていますか。それらはどんな施設ですか。 | T：発問する S：答える／資料をもとに答える T：説明する | ① ② | ・大英博物館は、イギリスのロンドンにある国立博物館である。大英博物館として開館したのは18世紀中頃である。古代の美術品や考古学的遺物をはじめ、古今の様々なものが収蔵されている。 ・ルーヴル美術館は、フランスのパリにある国立美術館である。18世紀終わりに国立美術博物館として開館した。世界のあらゆる地域・時代の美術品が収蔵されている。 |

歴史教育における博物館展示の新たな活用

| | | | |
|--------|---|---|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・コレクションが国の物となったのは大英博物館が先であったとはいえ、さらに国民全体の財産として国民に本格的に公開・開放されたという意味で、ルーヴル美術館は最初の公共の博物館といえますが、それには18世紀終わりのどういう出来事が関わっているのでしょうか。 ・18世紀に開館した何れも博物館(ミュージアム)といわれますが、博物館とはどういう施設なのでしょう。 ・日本にはどんな博物館があるか知っていますか。 | <p>T : 発問する S : 答える T : 説明する</p> <p>T : 発問する S : 資料をもとに答える T : 説明する</p> <p>T : 発問する S : 答える</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・フランス革命でルーヴル美術館は誕生した。 ・フランス革命で誕生したルーヴル美術館では、見学が国民の権利として認められた。 ・市民革命を経て、18世紀終わり以降、近代の西欧で公共の博物館が誕生した。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際博物館会議は、「博物館とは、社会とその発展に貢献するため、有形、無形の人類の遺産とその環境を、研究、教育、楽しみを目的として収集、保存、調査研究、普及、展示する、公衆に開かれた非営利の常設機関である」と定義している。 ・博物館(ミュージアム)とは、古代ギリシアの芸術・学問の女神であるムーサイのいる場所を指すムセイオンを語源とするといわれる。 ・山梨県立博物館、山梨県立美術館、山梨県立考古博物館、山梨県立文学館、甲斐黄金村・湯之奥金山博物館、国立歴史民俗博物館、東京国立近代美術館、国立科学博物館、東京国立博物館、東京都江戸東京博物館、広島平和記念資料館、長崎原爆資料館、京都国立博物館、奈良国立博物館、ひめゆり平和祈念資料館…… <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本博物館協会は、資料のカテゴリーにより、総合、郷土、美術、歴史、自然史、理工、動物園、水族館、植物園、動水植に加盟館を分類している。 <p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山梨県立博物館の常設展示は歴史中心であり、この博物館は歴史系の博物館に分類できる。 ・歴史系博物館として、例えば、国立歴史民俗博物館、東京国立博物館、東京都江戸東京博物館、長野県立歴史館、広島平和記念資料館、長崎原爆資料館、ひめゆり平和祈念資料館、京都国立博物館、奈良国立博物館、山梨県考古博物館、甲斐黄金村・湯之奥金山博物館など、多数が挙げられる。 |
| 【パート2】 | <p>◎国内外にさまざまな博物館があるなかで、山梨県立博物館はどんなタイプの博物館でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本では、博物館は明治時代以降につくられはじめ、第二次世界大戦後の20世紀後半に多くつくられますが、博物館は分野によってどんなタイプに分けられるのでしょうか。 ・山梨県立博物館はどのタイプにあてはまるのでしょうか。常設展示から判断してみよう。 ・日本にある博物館の約半数は歴史系博物館ですが、その例として他にどんなものがありますか。 | <p>T : 課題を提示する</p> <p>T : 発問する S : 資料をもとに答える</p> <p>T : 発問する S : 資料をもとに答える</p> <p>T : 発問する S : 答える</p> | <p>T : 課題を提示する</p> <p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山梨の風土とくらし」 ・「甲斐を往き交う群像」 ・「共生する社会」 |

歴史教育における博物館展示の新たな活用

| | | | |
|---|-----------------------------------|-----------|--|
| <p>・「山梨の風土とくらし」,「甲斐を往き交う群像」,「共生する社会」という各々のパートはどんなコーナーから成り立っていますか。</p> | <p>T : 発問する S : 資料をもとに答える</p> | <p>⑥</p> | <p>・「山梨の風土とくらし」のパートは、「自然の森の中で」(縄文時代),「甲斐の誕生」(古墳・奈良時代),「甲斐の黒駒」(古墳・奈良・平安時代),「水に取り組む」(平安・鎌倉・室町・江戸時代),「戦国からのメッセージ」(室町時代),「里にくらす」(江戸時代・近代),「城下町の賑わい」(江戸時代),「山に生きる」(室町・江戸時代・近現代),「変貌する景観」(江戸時代・近現代)という9つのコーナーからなる。</p> <p>・「甲斐を往き交う群像」のパートは,「信仰の足跡」(平安・鎌倉・室町時代),「甲斐を駆ける武士たち」(平安・鎌倉・室町時代),「川を彩る高瀬舟」(江戸時代・近代),「道がつなぐ出会い」(平安・鎌倉・室町・江戸時代),「江戸文化の往来」(江戸時代),「転換期に向き合う」(江戸時代・近代),「巨富を動かす」(近現代)という7つのコーナーからなる。</p> <p>・「共生する社会」というパートは,「地方病との戦い」(近現代),「明治40年の大水害」(近現代),「山梨と戦争」(近現代)という3つのコーナーからなる。</p> |
| <p>・各コーナーでは,過去のどのような事柄について表されていますか。</p> | <p>T : 発問する S : 資料をもとに答える</p> | <p>⑥</p> | <p>・「山梨の風土とくらし」のパートでは,例えば,「水に取り組む」の場合,先人たちが治水や利水という水の問題に取り組んできたことが表されている。</p> <p>・「甲斐を往き交う群像」のパートでは,例えば,「川を彩る高瀬舟」の場合,鉄道が開設されるまでは富士川などの水運によって大量の物資を運んでいたことが表されている。</p> <p>・「共生する社会」のパートでは,例えば,「地方病との戦い」の場合,地方病が人々を苦しめてきたこと,それを克服し,自然と人の共生がすすんできたことが表されている。</p> |
| <p>・逆に,この常設展示では扱われていない,あるいは扱いが弱いと感じられる山梨の地域の過去の事柄はありますか。</p> | <p>T : 発問する S : 答える</p> | <p>⑥</p> | <p>(例)</p> <p>・「甲斐を往き交う群像」のパートで,武田信玄は取りあげられているが,その扱いは弱いのではないか。</p> <p>・「共生する社会」のパートで,戦争について取りあげられているが,空襲などの被害に関することが中心で,甲府に軍(第49連隊)がおかれていたことの扱いは弱いのではないか。</p> <p>・国中地方の事柄が多く,郡内地方の事柄が少ないのではないか。</p> <p>・自分の市町村の偉人や事柄が取り上げられていないのではないか。 など</p> |
| <p>・各コーナーの展示の仕方にはどんな共通点がありますか。</p> | <p>T : 発問する S : 資料をもとに答える</p> | <p>⑥</p> | <p>・展示資料,各資料の解説,各コーナーの大きな文字の解説。例えば,「水に取り組む」のコーナーでは「曇るだけで三寸の水が溢れる」「月夜だけで地面は灼ける」などと大きな文字の解説が掲げられている。</p> |
| <p>・3つのパートからなるメイン展示を観覧する順路は,時系列にそっていますか,そっていませんか。</p> | <p>T : 発問する S : 資料をもとに答える</p> | <p>⑤⑥</p> | <p>・「共生する社会」というパートは,近現代に限定されているが,「山梨の風土とくらし」と「甲斐を往き交う群像」というパートでは,それぞれに様々な時代が扱われている。観覧の順路は観覧者に委ねられており,「山梨の風土とくらし」と「甲斐を往き交う群像」を行き来することもできるようになっている。全体の観覧の順路は時系列にそって</p> |

歴史教育における博物館展示の新たな活用

| | | | | |
|---------------|--|---|-------------------------------|--|
| | <p>・近隣都県の歴史系博物館の常設展示と比べると、山梨県立博物館の常設展示の形態・方法にはどんな特色があるでしょうか。</p> <p>・「山梨の風土とくらし」、「甲斐を往き交う群像」、「共生する社会」というテーマのもと、それぞれのパートの展示では、どんなことを私たちに訴えかけてきていると感じますか。</p> <p>・メイン展示の全体として、どういう内容が表現されているでしょうか。グループごとに考えてみましょう。</p> <p>・グループごとに考えたことを発表してください。各グループの発表を聞いた後、自分の考えをまとめてみましょう。</p> <p>・山梨県立博物館の常設展示の表現をとらえる上で、どんな点に注目してきましたか。</p> | <p>T：発問する S：資料をもとに答える</p> <p>T：発問する S：資料をもとに答える</p> <p>T：発問する S：グループごとに考える</p> <p>T：指示する S：発表する S：考えをまとめる</p> <p>T：発問する S：学習を振り返って答える</p> | <p>⑦⑧</p> <p>⑤⑥</p> <p>⑤⑥</p> | <p>いるとはいえない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時系列中心ではなくテーマ中心の展示になっている。 ・山梨県立博物館も東京都江戸東京博物館も長野県立歴史館も地域の歴史を常設展で扱っている。しかし、東京都江戸東京博物館は特定の時代のみを扱っている。長野県立歴史館は原始から近現代までを時系列的に順序立てて扱っている。それらに対して山梨県立博物館は、原始から近現代を扱っているものの、3つのテーマ別の展示になっており、観覧者の動線も自由である。 ・「山梨の風土とくらし」のパートでは、自然への働きかけや災害とのたたかいを通して人々のくらしが変化してきた、というメッセージが発せられているのではないか。 ・「甲斐を往き交う群像」のパートでは、山に囲まれた自然の中でも、他地域とのヒトやモノの交流を通して人々のくらしがすすめられてきた、というメッセージが発せられているのではないか。 ・「共生する社会」というパートでは、近代以降においても地方病や水害に苦しみながら対処してきた、戦争の被害に苦しんだ、自然と人の共生、人と人の共生が今後も課題となる、というメッセージが発せられているのではないか。 <p>(グループごとの話し合い)</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つのそれぞれのパートにおける地域の歴史についてのテーマ的な展示により、山梨の地では、昔から自然への働きかけや災害とのたたかいを通じて、また他地域との交流を通じて、人々のくらしがすすめられてきており、これからも自然と人の共生、人と人の共生が課題となるということが表現されている。 ・一握りの偉人の業績ではなく、地域の一般の人々の暮らしや営みがどういうものであったかに焦点をあてて表現されている。 など ・展示は過去の何について扱っているか（何については、扱っていないか、扱いが弱いかな）。 ・それらの事柄について、どう展示しているか。 ・そのような展示によって、どういう内容を表現しているか。 |
| <p>【パート3】</p> | <p>◎常設展示では、「山梨の自然と人」を基本テーマとしたテーマ別の展示がされています。なぜ山梨県立博物館の常設展示ではそのように山梨の地域の歴史が表現されているのでしょうか。</p> | <p>T：課題を提示する</p> | | |

歴史教育における博物館展示の新たな活用

| | | |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> この博物館をつくり運営している主体はだれですか。 | <p>T：発問する S：答える</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> 教科書的な時代区分に基づく通史的な展示ではなく、「山梨の自然と人」を基本テーマとしたテーマ別の展示を採用しているのは、山梨の歴史に対してどのような理解にたっているのでしょうか。 | <p>T：発問する S：答える</p> | <p>⑤⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> 山梨という地域の歴史は一部の偉人によってではなく、一般の人々によってつくられてきたという理解にたっている。 山梨という地域の歴史は自然と人の関係、他地域との関係のなかで展開されてきたという理解にたっている。 山梨という地域は人々がさまざまな課題に取り組むことで形成されてきたという理解にたっている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> そのような山梨の歴史の理解に基づく展示は、単に昔の資料を提示しているのでしょうか、昔の資料をもとに何らかの解釈を表現しているのでしょうか。 | <p>T：発問する S：答える</p> | <ul style="list-style-type: none"> 個々の展示物は、過去についてとらえるための手がかりとなる資料として用いることができるものである。とはいえ、それらは山梨という地域の歴史は自然と人の関係、他地域との関係によって展開されてきたという基本的な理解に従って選択・配置されており、各展示物の解説やコーナーの大きな文字の解説が添えられてもいる。武田信玄の取り扱いが弱いのも、そのような理解に基づいているからであろう。 展示は、自然と人の関係、他地域との関係のなかで山梨の地域の歴史が展開されてきたという理解に基づく解釈を表現している。 |
| <ul style="list-style-type: none"> この常設展示によって山梨県は観覧する県民に対して何を促すことを目指しているのでしょうか。また、なぜ山梨県は県立の博物館でそのようなことを目指そうとするのでしょうか。グループごとに考えてみましょう。 | <p>T：発問する S：グループごとに考える</p> | <p>(グループごとに話し合う)</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> グループごとに考えたことを発表してください。各グループの発表を聞いた後、自分の考えをまとめてみましょう。 | <p>T：指示する S：発表する S：考えをまとめる</p> | <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> この常設展示は、山梨県の県民に対して、山梨という地域の歴史は自然と人の関係、他地域との関係のなかで展開されてきたことを伝え、現在の地域がそういった人々の営みによってうみだされてきたことに気づいてもらい、これからも自然と人の共生、人と人の共生が大切であるという課題意識を促すことに主眼があるのではないか。 そのようなことを目指すのは、山梨県として、よりよい地域づくりをすすめていくために、地域の先人の営みに学び、地域づくりの主体としての県民意識を住民にもってもらいたいからではないか。など |
| <ul style="list-style-type: none"> 山梨県立博物館の開館時に開催された初めての企画展のテーマが全国的に有名な武田信玄ではなく、「やまなしの道祖神祭り」とされたのはどうしてか、読み解いてみましょう。 | <p>T：発問する S：答える</p> | <ul style="list-style-type: none"> 武田信玄という特定の為政者だけにスポットをあてるのではなく、山梨の各地域で引き継がれてきた道祖神祭りを初めての企画展のテーマとすることにより、地域の一般の人々の暮らしにスポットをあてる姿勢を示し、“県民の博物館”であることを打ちだそうとしたのだろう。 など |
| <ul style="list-style-type: none"> ある出来事から100年が経った1970年代以降、日本各地で地域の資料を使って、教科書に記されているような日本の通史を表現する公立の歴史系博物館が数多く新設されましたが、それはどうしてでしょうか。 | <p>T：発問する S：資料をもとに答える</p> | <p>⑨</p> <ul style="list-style-type: none"> 明治維新や廃藩置県から100年が経ち、明治100年や自治体100年を機に自治体史の編纂がすすめられ、各地で歴史系博物館がつくられ、地域の資料を使って日本の通史を構成する展示が中心となった。 |

歴史教育における博物館展示の新たな活用

| | | | | |
|---------------|--|--|--------------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> 山梨県でも県史の編纂が行われましたか。 山梨県立博物館は1990年代から建設の議論がはじまり、2005年に開館しましたが、その常設展示が従来のような通史的な展示ではなく、テーマ中心の展示になった背景には、どんなことがあったのでしょうか。当時の新聞記事を手がかりにして考えてみましょう。 山梨県立博物館の常設展示による表現の訳を考える上で、どんな点に注目してきましたか。 | <p>T：発問する T：山梨県史を紹介しつつ説明する</p> <p>T：発問する S：答える</p> <p>T：発問する S：学習を振り返って答える</p> | <p>⑩</p> <p>⑪⑫</p> | <ul style="list-style-type: none"> 山梨県では1990年代に入ってから県史の編纂がはじめられ、2000年代に入ってから完成した。 山梨県の「幸住県計画」に博物館建設が位置づけられた（都道府県立の博物館がないのは当時、山梨県を含めて5県のみであった）。 しかしながら、地方自治体の財政が厳しくなり、予算が限られるため、ハコ物と呼ばれる公共施設の建設には反対の声も多く、建設の是非が大きな問題となった。 建設の目的や意義が問われ、地域の資料を使って日本の通史を構成するような画一的な博物館や、一過性の見学で終わってしまうような観光客重視の博物館ではなく、山梨ならではの歴史や文化を扱い、県の住民が自分たちの地域について気づいたり考えたりできるような個性ある地域志向・住民志向の博物館が目指されることになった。 展示の主体はだれか（主体）。 展示は過去をどうとらえているか（過去についての理解）。 展示によって何をねらっているか（趣旨・意図）。 なぜそれをねらっているか（政治的社会的立場）。 そのような展示はどのような背景のもとで生まれたものか（社会的背景）。 |
| <p>【パート4】</p> | <ul style="list-style-type: none"> 山梨県立博物館の来場者数はどうですか。山梨県の公共施設管理運営状況調査ではどう評価されていますか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎山梨県立博物館の常設展示に改善すべきことはあるでしょうか。あるとすれば、どう改めるとよいでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 現在の常設展示が基づいている過去についての理解は、適切でしょうか。 過去についての理解、展示の趣旨・意図、展示の現状は、矛盾せず辻褄が合っているでしょうか。 | <p>T：発問する S：資料をもとに答える</p> <p>T：課題を提示する</p> <p>T：発問する S：意見交換する</p> <p>T：発問する S：意見交換する</p> | <p>⑬</p> <p>⑤⑥</p> | <ul style="list-style-type: none"> 常設展の観覧者数は横ばいで、伸び悩んでいる。 山梨県の公共施設管理運営状況調査（平成28年度）では、利用者満足度において一定の評価を得ているが、再利用希望の割合がやや低いこと、リピーターが多くなるように努める必要があることなどが指摘されている。 <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 山梨という地域の歴史は自然と人の関係、他地域との関係のなかで展開されてきたというとらえ方は適切ではないか。 秀でた偉人が地域の歴史をリードして引っ張ってきたことに注目すべきではないか。一般の人々の生活や社会よりも、武田信玄をはじめ、郷土の礎を築いた人物たちに焦点をあてるべきではないか。 など <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 矛盾せず辻褄が合っているのではないか。 趣旨・意図にこたえるためには、個々の展示物の見所がもっと子どもにもわかるように示されるとよいのではないか。 趣旨・意図にこたえるためには、地域的な偏りを改めたほうがよいのではないか。 など |

歴史教育における博物館展示の新たな活用

| | | |
|---|---------------------------------|---|
| <p>・それでは、現在の常設展示は観覧する地域の人たちに対してどんな影響をおよぼすでしょうか。</p> | <p>T：発問する S：意見交換する</p> | <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この地域をよりよくするために取り組んでいくべき課題に気づかせる働きをするのではないだろうか。 ・山梨の地における人々の営みや歩みに共感し、自分もこの地域の主体として取り組んでいこうという気持ちを持つように促すのではないだろうか。 ・他の地域に比べての山梨のすばらしさに気づくことが難しく、県民としての誇りをもてないのではないだろうか。 ・武田信玄や富士山について知りたい人にとっては期待はずれではないだろうか。 ・そもそも興味をもたれず、影響をおよぼさないのではないだろうか。 ・時系列的な歴史の見方に慣れていない人にとっては理解が難しく、効果がないのではないだろうか。など |
| <p>・そもそも、常設展示の趣旨・意図や基本立場は納得できるものでしょうか。博物館の新しい館長のインタビュー記事も参考に考えてみましょう。</p> | <p>T：発問する S：意見交換する</p> | <p>⑭ (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山梨を現在や将来の住民にとってよりよい地域に改めていくべきであり、そのためには、過去を振り返ることで地域の課題に気づけるようにし、地域づくりの主体としての県民意識を促すことが重要であり、現在の趣旨・意図や立場は適切なのではないか。 ・歴史的に築かれてきた山梨の良さをこれからも守っていくべきであり、そのためには、県民が地域の歴史や文化を理解し誇りや愛情をもてるようにすることが大事であり、時系列的な展示にし、傑出した業績をのこした人物や優れた文化的な遺産を中心にするとういのではないか。 ・山梨県では何よりも地域の経済振興を重視する必要があり、そのためには歴史的な文化財を「観光資源」として手段的に活用し、県外の人たちのニーズにも応えられるようにすべきであり、武田氏と富士山に関する展示の充実が必要ではないだろうか。 など |
| <p>・以上の考察を踏まえ、山梨県立博物館の常設展示の在り方について、自分の考えをまとめてみましょう。</p> | <p>T：指示する S：自分の考えをまとめる</p> | <p>(略)</p> |
| <p>・常設展示の在り方を吟味検討する上で、どんな点に注目してきましたか。</p> | <p>T：発問する S：学習を振り返って答える</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・過去についての理解は適切か。 ・過去についての理解、展示の趣旨・意図、展示の内容は、辻褄があっているか。 ・展示の趣旨・意図、政治的社会的立場は社会にとって妥当か。 |
| <p>・これからの歴史学習において、学習の題材に関連する展示についても検討してみましょう。また、博物館の展示以外にも、社会の中に歴史を見出し、検討してみましょう。</p> | <p>T：今後の課題を予告する</p> | |

〔資料〕

- ①大英博物館ホームページ (http://www.britishmuseum.org/PDF/BritishMuseum_Freeplans_Map_Oct_2018.pdf)
- ②ルーヴル美術館ホームページ (<https://www.louvre.fr/jp/plan>)
- ③「イコム規約(2017年6月改訂)」(https://www.j-muse.or.jp/icom/ja/pdf/ICOM_regulationspdf)

- ④日本博物館協会ホームページ (<https://www.j-muse.or.jp/>)
- ⑤山梨県立博物館編集・発行『山梨県立博物館常設展示案内』改訂第二版、2009年、pp. 4-5
- ⑥山梨県立博物館編集・発行『山梨県立博物館ガイドブック』、2006年、pp. 19-28、及び、山梨県立博物館ホームページ〔展示案内〕(http://www.museum.pref.yamanashi.jp/3nd_tenjiannai_03kansyoneo.htm)等をもとに筆者作成
- ⑦江戸東京博物館ホームページ (<https://www.edo-tokyo-museum.or.jp/floor-guide/5-6f/>)
- ⑧長野県立歴史館ホームページ (<https://www.npmh.net/exhibition/tenji.php>)
- ⑨「明治百年を契機にして設立された博物館」(一覧表)、金子淳『博物館の政治学』、青弓社、2001年、p. 191
- ⑩山梨県編集・発行『山梨県史 通史編6 近現代2』、2006年
- ⑪「総額4607億円の積極型 県が新年度一般会計当初予算案」、『朝日新聞』1994年2月22日地方版(山梨)朝刊(地方面)
- ⑫「県立博物館 12年の光と影 天野県政点検2」、『朝日新聞』2002年6月19日地方版(山梨)朝刊(地方面)
- ⑬山梨県教育庁学術文化財課「平成28年度公共施設管理運営状況調査シート」(https://www.pref.yamanashi.jp/zaisankanri/shisetsu_hyouka/documents/12hakubutukan28.pdf)
- ⑭「文化財と観光結ぶ」県外からの誘客に意欲、『山梨日日新聞』2018年9月1日朝刊(12面)

V 「山梨県立博物館が語る歴史」における博物館活用の特質・意義 一結びにかえて

単元「山梨県立博物館が語る歴史」は、パブリックヒストリーとしての博物館の歴史展示をメタ的に分析検討するメタ・パブリックヒストリーの導入学習であり、歴史教育における博物館展示の活用において、次の5点の特質・意義を有しているといえよう。

第1は、歴史教育における博物館の歴史展示のとらえ方を変化させていること、過去の史料としてでなく、現在の歴史叙述としてとらえることである。

第2は、博物館展示の活用をヒストリー学習のための活用ではなく、メタ・パブリックヒストリー学習のための活用に拡げることである。

第3は、博物館展示のメタ・パブリックヒストリー学習を歴史展示の既存の有り様を分析する学習に留めず、それを踏まえて社会にとっての望ましい在り方を探求する学習まですすめることである。

第4は、全国的に著名な博物館の展示ではなく、身近な地域の博物館の展示でも、博物館展示のメタ・パブリックヒストリー学習は可能であり、どの地域の学校でも実施できることを示していることである。

第5は、高校歴史教育において博物館展示をはじめとするパブリックな領域の歴史に関するメタ・パブリックヒストリー学習をねらうための導入学習として、学校内外で博物館展示について取り組んでいくための基本的理解と基本的視点、基本的意識を育む一つのモデルを提示していることである。

このような特質・意義を有する「山梨県立博物館が語る歴史」は、歴史教育における博物館展示の新たな活用の可能性を拓くものである。とともに、博物館の在り方を通して社会の在り方を探求する社会形成の教育の可能性を拓くものでもある。それは歴史教育のみならず社会科教育としての博物館活用の新たな在り方を提起するものなのである。

博物館活用の新たな可能性をさらに拡げるためには、歴史総合の大項目B以降や日本史探究、世界史探究のための単元開発がすすめられていくべきである。メタ・パブリックヒストリー学習に基づく博物館展示の活用を高等学校において推進するだけでなく、中学校で可能にすることも必要となる。中学校社会科の歴史的分野の場合、例えば、各単元における「身近な地域の歴史」の学習¹³⁾において、身近な地域の博物館の歴史展示を丸ごとトータルに扱うのではなく、そこでのヒストリー学習と結びつけて一部に限定して扱うのであれば、メタ・パブリックヒストリー学習は可能ではなかろうか。高校歴史教育とともに、中学校歴史教育にも射程を拡げ、メタ・パブリックヒストリー学習としての博物館活用の可能性をさらに究明していくことが課題といえよう。

註

- 1) パブリックヒストリーの定義は、諸外国の研究においても未だ定まっているとは言い難い。本稿では、岡本充弘の「議論にまだ未整備なところがあるが、パブリックヒストリーは基本的にはパブリックに対する歴史、つまり一般の人々に向けられた歴史、そして一般の人々の間にある歴史である」（岡本充弘『過去と歴史』、御茶の水書房、2018年、p.243）とする認識に拠っている。同『開かれた歴史へ』、御茶の水書房、2013年、p.15も参照。なお、「さしあたり厳密な定義を棚上げして、公共史の領域の最大公約数として、書物、博物館、歴史記念館、映画、テレビ番組など、大衆と歴史学を橋渡しするメディアということにしておこう。ただし、いずれのメディアにおいても、専門歴史家の関与が担保されていることが、「公共史」の要件である」としたい（剣持久木「歴史認識問題から公共史へ」、同編著『越境する歴史認識』、岩波書店、2018年、p.3）とする認識も存在する。
- 2) 歴史叙述としての博物館展示の把握については、小島道裕「歴史展示をつくるとは」、国立歴史民俗博物館編『歴史展示とは何か』、アム・プロモーション、2003年、白井哲哉「歴史展示のポストモダニズム」、『歴史学研究』No.855（2009年7月号）、p.10、他。また、過去についての語り（ナラティブ）としての歴史の把握については、野家啓一『歴史を哲学する』、岩波書店、2007年。
- 3) 原田智仁「歴史リテラシーの可能性（五）」、文部科学省『中等教育資料』平成15年10月号、2003年、同「歴史リテラシーの可能性（六）」、文部科学省『中等教育資料』平成16年1月号、2004年など。
- 4) 例えば、田尻信壹『探究的世界史学習論研究』、風間書房、2017年、pp.237-274、豊田桃子・小山茂喜・塚田智紀「博物館、フィールドワークを活用した授業づくり」、全国社会科教育学会編『新社会科授業づくりハンドブック 中学校編』、明治図書、2015年など。
- 5) 服部一秀「社会のなかの歴史に関するメタヒストリー学習の意義」、社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第28号、2016年、及び、同「メタヒストリー学習に基づく社会形成教育としての歴史授業」、社会系教科教育学会編『社会系教科教育学研究のブレイクスルー』、風間書房、2019年。
- 6) 山梨県立博物館『山梨県立博物館ガイドブック』、山梨県立博物館、2006年、山梨県立博物館『山梨県立博物館常設展示案内』改訂第二版、山梨県立博物館、2009年、また、小畑茂雄「山梨県立博物館」、『中央史学』第29号、2006年。
- 7) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』、東洋館出版社、2019年、p.138。
- 8) これらのベースになっている基本的な考えについては、服部の前掲論文「メタヒストリー学習に基づく社会形成教育としての歴史授業」を参照されたい。
- 9) 例えば、大項目Cにおいて、世界大戦に関する歴史展示を取り上げるならば、修学旅行などでの観覧を通して第二次世界大戦の社会的記憶に大きな影響を及ぼしているであろう広島平和記念資料館の展示などは、メタ・パブリックヒストリー学習における学習対象の候補として挙げられよう。ファブリス・ヴィルジリ「日本における博物館展示と戦争の痕跡」、剣持久木編著『越境する歴史認識』、岩波書店、2018年、濱田武士「平和の聖地と悲慘のありか」、竹沢尚一郎編著『ミュージアムと負の記憶』、東信堂、2015年、福間良明『「戦跡」の戦後史』、岩波書店、2015年、他、参照。
- 10) トゥールミンの議論の論理については、足立幸男『議論の論理』、木鐸社、1984年、福沢一吉『議論のレッスン』、日本放送出版協会、2002年、参照。
- 11) これらの吟味検討の着眼点については、尾原康光「社会科授業における価値判断指導につい

て」, 全国社会科教育学会『社会科研究』第39号, 1991年に基づいている。

- 12) 表3末尾の[資料]に掲げた文献等の他に, 以下の文献を学習指導計画作成上において参考にした。伊藤寿朗『市民のなかの博物館』, 吉川弘文館, 1993年, 今村信隆編『博物館の歴史・理論・実践1』, 藝術学舎, 2017年, 上野祥史「歴史研究の展示へのまなざし」, 『歴史学研究』No.855 (2009年7月号), 小畑茂雄「山梨県立博物館」, 『中央史学』第29号, 2006年, 加藤有次ほか『現代博物館論』, 雄山閣, 2000年, 黒沢浩「歴史展示と歴史表象」, 『歴史学研究』No.854 (2009年6月号), 白井哲哉「歴史展示のポストモダニズム」, 『歴史学研究』No.855 (2009年7月号), 高橋雄造『博物館の歴史』, 法政大学出版局, 2008年, 日外アソシエーツ『日本全国歴史博物館事典』, 日外アソシエーツ, 2018年, 日本文教出版企画開発部DOME「特集 山梨県立博物館かいじあむのバースデー」, 『ミュージアム・マガジン・ドーム』第84号, 日本文教出版, 2006年, 増田亜樹ほか「公立歴史博物館の常設展示の類型とその変遷に関する研究」, 『日本建築学会計画系論文集』第76巻第667号, 2011年, 吉田憲司『改訂新版博物館概論』, 放送大学教育振興会, 2011年など。
- 13) 「身近な地域の歴史」の学習におけるメタ・ヒストリー学習の可能性について検討したものとして, 服部一秀・矢ヶ崎憲「中学校歴史教育におけるメタヒストリーに基づく『身近な地域の歴史』の学習」, 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要『教育実践学研究』No.24, 2019年。

付記 本稿は, JSPS 科研費 26381189, 及び, JSPS 科研費 19K02836 による研究成果の一部である。